

昨日(7/4)の文教常任委員会で 特別支援学校の建設予算を議論

# 県議会 分教室は「間借り」ではなくエリアの確保を

昨日(7月4日)の文教・警察常任委員会で、特別支援学校の建設予算が議論されました。その中で、伊吹高校への分教室設置についてのやりとりを報告します。県は、当初了解していた分教室の設置に不可欠な校舎の増設を、財政難を理由に途中から反故にしました。



粉川議員：分教室について、現場の声を反映した内容になっているのか？

教育総務課長：石部高校、伊吹高校ともに、6クラス規模の高校だったが、現在は4クラスになっており、生徒の減少によって空き教室がかなり出ている。そこは普段それなりには使っているが、余裕がある。それと、地域性等で特別支援学校を受け入れていただける条件があると言うことでこの2校を選んでいる。

その空き教室の、どの部分をどう使うのか、などについて、高校ごとに何度も調整させていただいている。校長、あるいは教頭と十分な協議を詰めている。

粉川議員：今の高校の教育環境もしっかり守っていただき、さらに、分教室が、「間借り」というのではなく、一つのエリアを確保して、ここは長浜養護学校だ、三雲養護学校だと分かるように環境を整えてほしい。1階と3階に分かれてしまうと、そんなことには絶対ならないように。その環境が整えられないなら、教育長の答弁にもあったように、増築も含めて対応をしてください。

現場に納得いただいた上で子ども達によい環境をつくる

教育次長：それぞれの施設の役割分担も明確になった中で、お互いに良いという教育効果が生まれるように、両方の現場と十分に打ち合わせをして、現場に納得いただいた上で子ども達によい環境が作れるようにしっかり対応していく。

養護教諭が分教室にはいないのか

富波議員：分教室は分校でも独立校でもない。設備もだが、人的配置で例えば養護教諭が分教室にはいない、というようなことはどうか。一番ケガをしやすい子たちに、各段の配慮をしてほしい。

教職員課長：本校と、分教室は一体のものとして標準法に基づいて算定される。養護教諭の配置などについては、まさに県独自の配慮をしていく中で対応していくものだと考える。

この問題については、27日の県議会本会議の一般質問で取り上げられ、「財政の問題ではないというのなら、伊吹高校に分教室2クラスをきちんと確保できないとなれば、別棟を建てると理解していいのですね」と問い詰められた河原教育長は「対応できるように努力する」と答えざるを得ませんでした。

ストップ高校統廃合速報 2012年度第9号  
2012/7/5 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(掲示・増し刷り・回覧などで全教職員にお知らせください)